

普及活動情勢報告（令和元年8月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

ロボットトラクターや散布用ドローンの実証圃場見学 ～スマート農業事業説明会の開催～



散布用ドローンの操作方法や性能などの説明を受ける参加者

7月25日、営農支援センター四万十(株)事務所で、「スマート農業開発・実証プロジェクト」の実証事業説明会を開催し、県、町、JA等の関係者25名が参加しました。

実証代表機関の営農支援センター四万十は、実証の概要説明と実証圃場でロボットトラクターや散布用ドローンを実演しました。

普及所は、四万十町でのスマート農業の取組を紹介し、取組内容を関係機関で共有しました。

普及所は、スマート農機の実用化に向け、営農支援センター四万十(株)と協力して実証に取り組んでいきます。

ナバナ栽培の準備に向けて ～ナバナ栽培講習会の開催～



セル苗の説明を行う普及指導員

8月8日、JA高知県幡多地区十和支所で、9月からの定植に向けたナバナの栽培講習会が開催され、生産者36名が参加しました。

普及所は、足腰の負担軽減や、定植作業の省力化を目的に推進しているセル苗の活用について説明しました。

昨年度のセル苗の機械移植試験では、5aの定植作業に従来半日かかっていたものが、1時間30分で行うことができました。そのため、本年度から、生産者6名が取り組むことになっています。

普及所は今後も、JAと連携してナバナの作業の省力化など生産安定に向けて支援していきます。

四万十町への就農希望者を支援 ～高南地域営農協議会就農相談会の開催～



支援制度等について説明する支援機関職員

8月13日、四万十農協会館で、第1回就農相談会がお盆休みに合わせて開催され、2組5名が参加しました。

各支援機関から、産地提案書や、園芸用ハウス整備事業、制度資金などの支援策の概要を説明した後、個別に就農相談を受けました。

参加者からは、支援制度の内容や、栽培についてどのような指導が受けられるか、などについて質問がありました。

普及所は、町役場やJA、農業担い手育成センターなどの支援機関と連携して、相談者への継続した支援を行っていきます。

法人化で集落営農組織を地域の担い手に！農業の支え合いで地域を守る
～高南地域集落営農組織代表者連絡会の開催～



高知県の集落営農や中山間農業複合経営拠点の状況を報告する普及指導員

8月9日、四万十農協会館で、集落営農組織を対象とした研修会を開催し、27組織の役員ら38名が参加しました。

研修会では、四万十町の2つの法人経営体が、地域の担い手となるまでの経緯や、組織間での協力の必要性などの活動事例を発表しました。

参加者からは「法人化に踏み出すために、如何に集落をまとめるのか？」と課題が提起され、発表者からは「組織が無ければ地域は守れない。先のことを考え過ぎてためらうことなく、今、前に進むこと。」と参加者の背中を押す回答が返ってきました。

普及所は、町役場やJAなど関係機関と連携して、組織が抱えている課題を解決できるよう、支援していきます。

障害者の就業支援と農業の人手不足解消を目指して協議会を設立
～四万十町農福連携推進協議会設立準備会の開催～



協議会設立準備会の様子

8月5日、四万十町役場会議室で、四万十町農福連携推進協議会設立準備会を開催し、農業法人、障害者就労支援事業所、社会福祉協議会、町役場、JAの職員12名が参加しました。

普及所は、四万十町内の農福連携の現状や、協議会に期待される役割について説明しました。

参加者からは、「障害者の活躍できる場として農業に期待している。」「引きこもりの方などが、社会に参加するきっかけとして農業分野で働いてもらいたい。」などの意見が出されました。

協議の結果、協議会の設立が承認されましたので、普及所は今後、協議会会員と協力しながら、農福連携を推進していきます。